

はじめに

本書は、平成 26（2014）年度～平成 30（2018）年度科学研究費補助金基盤研究(A)「日本語の時空間変異対照研究のための『全国方言文法辞典』の作成と方法論の構築」（課題番号：26244024・研究代表者：日高水穂）の研究成果報告書である。以下に本研究の概要を示す。

目的と経緯

本研究は、日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の編纂を目的として、要地方言を統一的に調査するための共通調査項目を策定し、各地方言（標準語を含む）の文法的側面に関する対照研究を行うものである。

すでに、2014年3月に『全国方言文法辞典資料集(2)活用体系』、2017年1月に『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』、2018年3月に『全国方言文法辞典資料集(4)活用体系(3)』を刊行し、以下の要地方言の活用体系記述を行った。

『全国方言文法辞典資料集(2)活用体系』

| | |
|---------------|-------|
| 岩手県盛岡市方言 | 竹田晃子 |
| 秋田県由利本荘市本荘方言 | 日高水穂 |
| 山梨県甲府市方言 | 吉田雅子 |
| 富山県富山市方言 | 小西いずみ |
| 岐阜県岐阜市方言 | 山田敏弘 |
| 滋賀県長浜市方言 | 酒井雅史 |
| 京都府京都市方言 | 松丸真大 |
| 大阪府方言 | 野間純平 |
| 山口県東周防方言 | 船木礼子 |
| 福岡県福岡市方言 | 平塚雄亮 |
| 沖縄県那覇市首里方言 | 仲原穰 |
| 沖縄県宮古島市平良下里方言 | 中本謙 |

『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』

| | |
|------------|-----------|
| 山形県山形市方言 | 竹田晃子・澤村美幸 |
| 茨城県水海道方言 | 佐々木冠 |
| 群馬県藤岡市方言 | 新井小枝子 |
| 東京都方言 | 三井はるみ |
| 石川県能登島方言 | 野間純平 |
| 静岡県湖西市方言 | 森勇太 |
| 愛知県新城市作手方言 | 山田敏弘 |

| | |
|-------------|-------|
| 兵庫県神戸市方言 | 酒井雅史 |
| 岡山県岡山市方言 | 小島裕将 |
| 広島県三次市方言 | 小西いずみ |
| 高知県宿毛市方言 | 松丸真大 |
| 大分県由布市庄内町方言 | 松田美香 |
| 鹿児島県甕島里方言 | 平塚雄亮 |
| 沖縄県多良間島方言 | 下地賀代子 |

『全国方言文法辞典資料集(4)活用体系(3)』

| | |
|--------------|-----------|
| 宮城県仙台市方言 | 武田拓 |
| 福島県福島市方言 | 半沢康 |
| 千葉県南房総市三芳方言 | 佐々木冠 |
| 福井県大野市方言 | 松倉昂平 |
| 鳥取県倉吉市方言 | 野間純平 |
| 島根県出雲市平田方言 | 平子達也・友定賢治 |
| 愛媛県松山市方言 | 久保博雅 |
| 長崎県佐世保市宇久町方言 | 門屋飛央 |
| 鹿児島県鹿児島市方言 | 平塚雄亮 |

本書はこれに引き続き、本土方言 6 地点（八丈島方言 1 地点を含む）、琉球方言 1 地点の活用体系の記述を行うものである。

本書の活用体系の記述方針は、『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』の「この報告書における記述の枠組み」を踏襲しており、本書にもこれを再掲する。本書の要地方言の記述は、本研究の母体である方言文法研究会のメンバーである吉田雅子氏に加えて、大西拓一郎氏、乙武香里氏、澤村美幸氏、西尾純二氏、原田走一郎氏、三樹陽介氏に、各氏のフィールドとする要地方言の記述を依頼した。各執筆担当者の原稿を一貫した記述方針のもとに整える作業は小西が行い、本書の全般的な編集作業は日高が行った。

本書には、この要地方言の活用体系記述に加えて、「各地方言文法記述」として、中川寛之氏（関西大学大学院生）の「愛媛県宇和島市の方言文末詞」を収録する。愛媛県宇和島市方言には共通語の「ってば」に近似する文末詞「テヤ」があるが、中川氏は「テヤ」を中心とした当方言の文末詞の用法と動態の記述的研究を進めており、本研究の目的に合致するものとして本書に収録することにした。

本研究の母体である方言文法研究会は、2001 年に以下の方針のもとに活動を開始した。

- ・方言の文法に関する記述をより精密なものにする。
- ・全国方言の文法形式、文法現象をできる限り網羅する。
- ・言語の対照研究に興味を持つ人全般に向けて情報発信する。

本研究会の最終目標は、上にも述べたように、『全国方言文法辞典』を成すことである。本研究会のこれまでの研究成果は、以下のウェブページにおいて公開している。

<http://hougen.sakura.ne.jp/>

最終的な『全国方言文法辞典』を成すためには、より広く諸方言の情報を収集していく必要がある。今後とも多くのご教示をいただきながら、本研究を進めていきたい。

研究組織

研究代表者： 日高 水穂
研究分担者： 青木 博史 小西いずみ 小柳 智一 下地賀代子
高木 千恵 竹田 晃子 中本 謙 野間 純平
林 良雄 平塚 雄亮 船木 礼子 前田 直子
松丸 真大 三井はるみ 森 勇太 矢島 正浩
山田 敏弘
連携研究者： 仲原 穰
研究協力者： 新井小枝子 井上 文子 *大西拓一郎 *乙武 香里
門屋 飛央 久保 博雅 小島 裕将 酒井 雅史
佐々木 冠 *澤村 美幸 武田 拓 友定 賢治
**中川 寛之 *西尾 純二 *原田走一郎 半沢 康
平子 達也 松倉 昂平 松田 美香 *三樹 陽介
*吉田 雅子

*本書の「要地方言の活用体系記述」執筆者

**本書の「各地方言文法記述」執筆者

交付決定額（配分額）

平成 26(2014)年度 9,490 千円（直接経費：7,300 千円、間接経費：2,190 千円）
平成 27(2015)年度 7,280 千円（直接経費：5,600 千円、間接経費：1,680 千円）
平成 28(2016)年度 7,800 千円（直接経費：6,000 千円、間接経費：1,800 千円）
平成 29(2017)年度 7,280 千円（直接経費：5,600 千円、間接経費：1,680 千円）
平成 30(2018)年度 7,800 千円（直接経費：6,000 千円、間接経費：1,800 千円）

2019年3月

日高水穂